

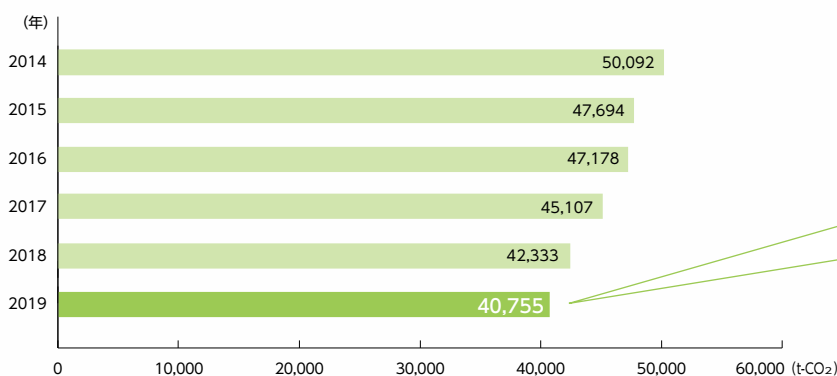
## CO<sub>2</sub>削減の取り組み



### CO<sub>2</sub>削減の取り組み背景

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をはじめとする温室効果ガスの濃度が上がると地球の温室効果が高まり、地上の温度が上昇する地球温暖化につながります。世界では、気温の上昇や海水面水位の上昇、農作物への影響といった現象が観測され始めています。CO<sub>2</sub>は温室効果ガスに占める割合が多く、地球温暖化に及ぼす影響が最も大きいとされています。ヤマナカで扱っている農水畜産物の生産は、地球環境の影響を大きく受けるものであります。私たちの暮らす地球を守ることはもちろん、お客様に安全・安心な商品を安定的にお届けするためにも、CO<sub>2</sub>の削減に取り組んでまいります。

#### CO<sub>2</sub>排出量の推移



2018年度と比較し、スギの木が1年間で吸収する量に換算して、**179,318本分**のCO<sub>2</sub>を削減することができました。

※40年生のスギ人口林1ヘクタールに1,000本の立木があると仮定した場合。

#### ヤマナカの取り組み

##### 電気使用量の削減

電気の使用量を削減することによって、エネルギー産生によって排出されるCO<sub>2</sub>の削減につながります。

⇒詳細はP16をご覧ください

##### レジ袋の無料配布中止

レジ袋の無料配布を中止することにより、製造から廃棄に至る過程で発生するCO<sub>2</sub>の削減に努めています。

⇒詳細はP18をご覧ください

##### エコカーの導入・エコドライブの実践

2014年より、業務使用車のエコカーへの変更を順次行っています。2020年3月現在までに、合計65台のエコカーを導入しました。また、業務に車を使用する従業員に対しては、定期的なエコドライブの教育を実施しています。



##### 行政からの認定

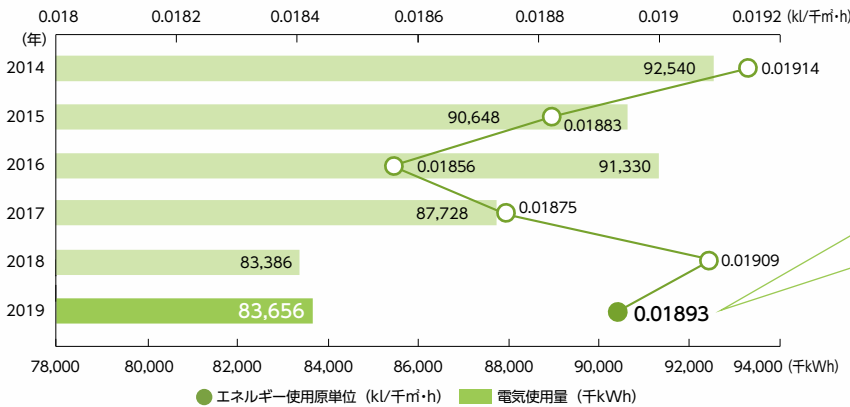
ヤマナカでは、2012年に「あいちCO<sub>2</sub>削減マニフェスト2020」に環境保全に対する取り組みを宣言して以降、宣言内容に沿って地道に取り組んできました。2015年度にはその取り組み実績が認められ、トリプルスターに認定されました。また、ヤマナカの名古屋市内の全店舗は名古屋市より優良エコ事業所の認定を受けています。



ヤマナカ共栄店  
デリカ部門 坂東

私は通勤の時、車を使わず電車や徒歩で通勤することを心がけます。

エネルギー使用原単位・電気使用量の推移



2018年度と比較し、電気使用量は微増しましたが、エネルギー効率を表すエネルギー原単位は削減することができたため、エネルギーの使用効率は改善されたと考えられます。

ヤマナカの取り組み

デマンドコントロール

店舗での電気使用量はリアルタイムで監視され、使用量が目標上限値を超える場合には、あらかじめ決めておいた電気機器や照明の電源を落とすなど、お客様のお買物や従業員の作業に支障のない範囲で節電対策を実施します。



冷蔵・冷凍機器設備の更新

店舗全体の電気使用量の約6割を占める冷蔵・冷凍機器設備を、改装店を中心に順次更新し、冷却効率を高めて電気使用量の削減に努めています。更新された設備はコンプレッサのインバーター制御、省エネタイプのファンモーター装備などにより、従来品と比較して大幅に消費電力を削減する事ができます。

冷却効率の良い冷凍ショーケースの導入

外気の影響を受けにくい、扉付きの内蔵ショーケースを導入することにより、消費電力の軽減を図っています。



店舗照明のLED化

店舗天井照明を、従来型の照明機器からより長寿命・高効率なLED照明へと交換しています。また、天井照明だけでなく、冷蔵オープンケースの棚下照明のLED化も同時に進めています。



お客様とともに実施する活動

ヤマナカでは行政の呼びかけで実施されている取り組みに参加し、お客様とともに省エネルギー活動を実施しています。2019年度は、自宅の空調を消して、涼しさ・暖かさをシェアするクール・ウォームシェアスポットの提供を拡大しました。

またヤマナカでは2019年度は5月1日から10月31日をクールビズ実施期間とし、ノーネクタイで業務を実施しました。

- あいちクール&ウォームシェアスポット実施店舗
- 白土フランテ館 ●アルテ岡崎北 ●ヤマナカ西尾寄住店
- とよはし版クールチョイス
- クール・ウォームシェアスポット実施店舗
- 豊橋フランテ館 ●ヤマナカ二川店 ●汐田フランテ館

## 容器包装使用量削減の取り組み

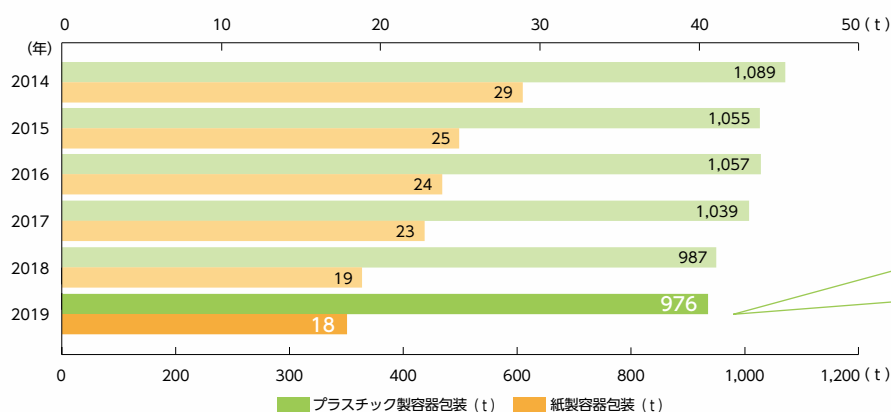


### 容器包装使用量削減の取り組み背景

近年、海の生き物が廃棄されたプラスチックごみに引っ掛かり命を落とすなどの海洋プラスチック問題が取りざたされています。また、容器包装の原料には貴重な資源が使用されています。

ごみを適切に処分することはもちろんですが、3Rの原則に則って容器包装の使用量を削減することにより、容器包装の不適切な廃棄による環境汚染や原料となる資源の枯渇抑制にもつながります。ヤマナカでは、商品の品質を保ちつつ、容器包装の使用量を削減する取り組みを実施しています。

プラスチック製容器包装・紙製容器包装使用量の推移



2018年度と比較し、発泡トレー約**323万枚**分のプラスチック製容器包装を削減しました。(ヤマナカで使用している一般的な発泡トレー(3.2g/枚)で換算)

### ヤマナカの取り組み

#### ノントレー包装の使用

一部店舗では鶏肉にトレーを使わない袋売り形態で販売しています。包装資材の使用の減少や、お客様が持ち帰る際にかさばらないなどの効果が期待できます。



#### ばら売り販売の実施

ヤマナカでは、お客様に必要な量だけお買い求めいただけるようばら売り販売を推進し、容器使用量の削減や食品ロスの削減に努めています。



### プレミアムサポート(株) 定期清掃方法変更

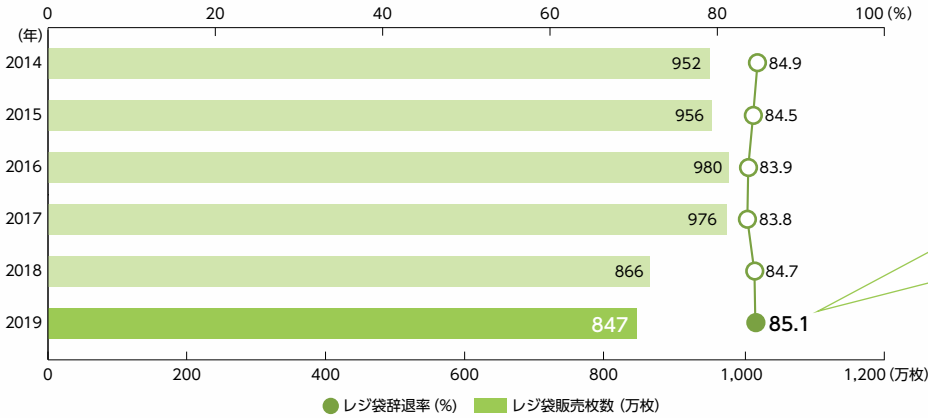
店舗のフロア清掃は長年洗浄・ワックス塗布を繰り返し、一定期間経過するとワックスを塩素系薬剤で剥離する工程の作業を繰り返しておりました。プレミアムサポートではこの清掃作業から脱皮し、剥離作業が必要のない清掃方式やワックスの変更を取り入れ、剥離をしなくてもきれいなフロアを維持することが可能になりました。この方法だと、剥離時に発生する塩素汚水を排出することがないため、環境負荷の低減に貢献できるとともに、導入後のワックス使用量も最少で済むことにより更なる貢献が可能です。弊社においても深夜作業で行う剥離作業がなくなり作業軽減にも繋がります。先期に既に導入を実施しており、今期においても順次店舗への導入を計画しています。



プレミアムサポート株式会社 | 専務取締役 林 文彦



レジ袋販売枚数・レジ袋辞退率の推移



お客様のご辞退により、4,534万枚※のレジ袋を削減することができました。  
※辞退者1人当たり1.2枚のレジ袋を使用したと仮定した場合

ヤマナカの取り組み

レジ袋無料配布中止の取り組み

ヤマナカでは、2007年10月よりCO<sub>2</sub>の排出削減を目的に実施された名古屋市の「レジ袋有料化促進モデル事業」への参加を皮切りに、行政と連携しながらレジ袋の無料配布中止を順次進めてまいりました。2020年3月時点では63店舗が無料配布を中止し、お客様のご協力のもと、レジ袋辞退率は85.1%まで高まりました。

なお、有料レジ袋の販売に伴う収益金は全額地域の自治体などに寄付され、環境活動や地域貢献活動にお役立ていただきました。2019年度分の収益金3,084,893円につきましては、新型コロナウイルス対策等の活動に役立てていただくため、お客様からの募金、ヤマナカ拠出金と合わせて日本赤十字社へ預託いたしました。



2019年度 寄付額：3,084,893円

My ACTION

ヤマナカ汐田フロンテ館  
デリカ部門 矢野

私は、買物する際、積極的にマイバッグを持参し、レジ袋の購入を控えるよう努めます。



## 廃棄物削減の取り組み

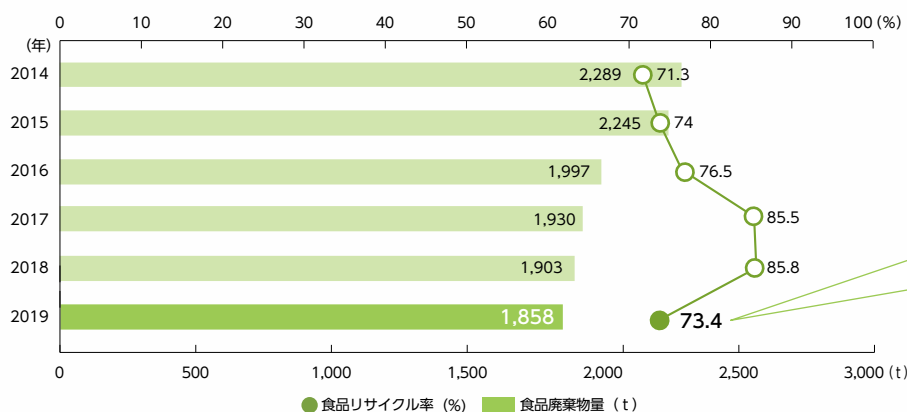


### 食品廃棄物量削減の取り組み背景

日本では、年間2,759万トン(※)の食品廃棄物等が排出され、そのうちまだ食べられるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」は643万トン(※)となっています。これは、国民一人が毎日お茶碗約1杯分(約139g)の食べものを捨てていることになります。(※農林水産省 食品廃棄物等の発生量(平成28年度推計)より)

食品を扱う企業としてヤマナカはこの問題を真摯に受け止め、売れ残り等による食品ロスの削減や、どうしても出してしまう野菜くずなどの生ごみはたい肥化するなど、食品廃棄物の焼却処分の削減に積極的に取り組んでいます。

食品リサイクル法にもとづく食品廃棄物量・食品リサイクル率の推移



2018年度の食品リサイクル率は73.4%となり、食品リサイクル法における小売業の目標である60%を大きく上回っています。

### ヤマナカの取り組み

#### 食品廃棄物の削減

適切な売り切りや精度の高い発注に努めることにより、食品廃棄物の削減に取り組んでいます。特に2019年度は恵方巻の予約販売に注力して売れ残りによる廃棄を減らすことにより、廃棄率を95%削減することができました。

**フードロス削減にご協力ください!**  
恵方巻きを予約してフードロスの削減にご協力をお願いします。  
**まずは予約から始めてみませんか?**  
恵方巻きのご予約は1月28日まで  
ご予約は「ヒスカウツク」をご利用ください。  
**ヤマナカ**  
廃棄率95%削減 (前年比)

#### 食品廃棄物の分別の徹底

調理の際に発生する野菜くずや魚のアラ、牛肉・豚肉の脂、食用廃油などは、有用な資源として肥料や飼料、油脂としてリサイクルされています。ヤマナカではこれらの食品廃棄物の分別を徹底し、焼却処分される廃棄物の削減に取り組んでいます。



#### 食品廃棄物のリサイクル方法の一例





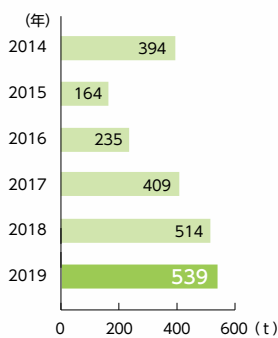
## お客様と実施する環境活動取り組みの背景

安全・安心な商品の販売に容器包装の使用は不可欠ですが、お客様のご家庭で分別してもう一度店頭までお持ちいただくことで、再び資源として利用することができます。

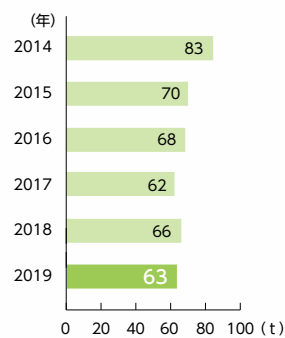
お客様にはお買物のついでにお気軽に環境保全活動に参加いただけるよう、店頭にて各種資源の回収を実施しています。

### 店頭回収資源量の推移

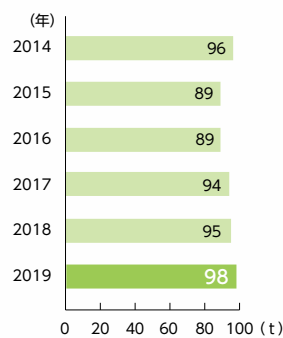
#### ◎ペットボトル



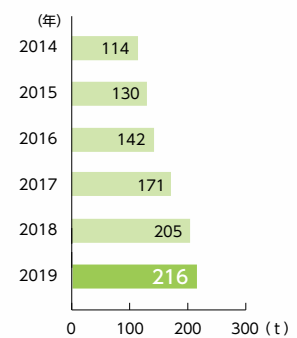
#### ◎発泡スチロール製トレー



#### ◎牛乳紙パック



#### ◎アルミ缶



### ヤマナカの取り組み

#### 資源の店頭回収

各店舗の店頭においてペットボトル、発泡スチロール製トレー、牛乳紙パック、アルミ缶などの資源回収を行っています。回収したペットボトル、発泡スチロール製トレーなどは繊維やトレーの原料などにリサイクルされています。また、2013年度からは新たに透明トレーの回収も一部店舗で始めました。また、名古屋市内20店舗では、市と協同でお客様からご家庭の廃食用油を回収させていただいています。

#### リサイクルステーションの設置

家庭から出るペットボトル・アルミ缶・新聞紙・段ボールなどの資源を回収するリサイクルステーションを、一部店舗において設置しています。グラッチェカードのポイントに交換できるエコポイントを導入することで、地域のリサイクル活動と地球環境保全活動を推進します。



#### リサイクルステーション設置店舗(2020年3月時点)

アルテ津新町、新中島フランチ館、松原店、滝ノ水店、白土フランチ館、一宮フランチ館、神守店、三郷店、味美店、共栄店、知多店、東海店、高横須賀店、西尾寄住店、西尾下町店、豊橋フランチ館、二川店、汐田フランチ館、みなと当知店、小田井店、ザ・チャレンジハウス太平通

### 豊田陣中店における紙製カトラリーの導入

2019年10月にオープンした新店の豊田陣中店では、お弁当などをご購入のお客様へお渡しするスプーン・フォーク・デザートスプーンについて紙製品への切り替えを実験的に開始しました。素材を環境によりやさしい紙製に変更することで、お客様とともにプラスチック製品の削減に努めます。今後、実施を全店舗に拡大していきます。



ヤマナカ二川店  
デリカ部門 馬場

私は、ごみを減らすために、必要な物以外買わない、もらわないようにしています。